



世  
新  
白  
文  
他  
八  
聽雨窓







春

正月

暮

草も木もさかすかしくなると  
自徳

朝の人もさかすかしくなると  
宗因

またたつてゆく九日の神  
色蕉

またたつてゆく八日の神  
野坡

春もや菌菜もさかすかしくなると  
許六

花もさかすかしくなると  
風

春たつてゆく九日の神  
文童

春たつてゆく八日の神  
園女

羽印や花の春もさかすかしくなると  
半残



花屋庵換













御味のほくやあまのり 桃如

一株の牡丹はさくらさくら 尾

あまのりおはさくらさくら 正秀

あつした道六さくらさくら 幾重

あまのりおはさくらさくら 曉臺

あまのりおはさくらさくら 希園

あまのりおはさくらさくら 梅盛

あまのりおはさくらさくら 千代

あまのりおはさくらさくら 巴祿

あまのりおはさくらさくら 加芳

あまのりおはさくらさくら 菊也

あまのりおはさくらさくら 友静

あまのりおはさくらさくら 墨文

あまのりおはさくらさくら

あまのりおはさくらさくら

あまのりおはさくらさくら 榊雌

あまのりおはさくらさくら 青蘿

あまのりおはさくらさくら 益村

あまのりおはさくらさくら 直守

あまのりおはさくらさくら 芭蕉

あまのりおはさくらさくら 桐雨

あまのりおはさくらさくら 野水

あまのりおはさくらさくら 汎竹

あまのりおはさくらさくら 妻由

あまのりおはさくらさくら 嵐竹

あまのりおはさくらさくら 史明

あまのりおはさくらさくら 斜頂

あまのりおはさくらさくら 今世

あまのりおはさくらさくら 支考

あまのりおはさくらさくら



梅よりかぬさだこの日の内 園女  
灰柱く白梅くま垣新丸 凡花  
粧もむらの月影くおはれ 惟然  
もおし向く人なむ花曇花 千代  
酔ふもよこま庭白く梅志 希因  
表嵐のくれむしれり神橋が 青蘿  
月の梅らくくぬるる白くれ 二柳  
梅くや町くみぬのま後より 風律  
木危よりりおめて梅れ花 蓼太  
灯火をて人なむや梅の宿 蕪村  
梅くやくぬる枝の小く 千代  
まのくく梅れ木枯て梅の花 几董  
浪浪や綱のちりもまれむ 諸九  
津原のまに低く梅のむ 木采

柳

海月れきあけり柳 凡花  
一風吹くも吹てきす柳外 由平  
水音の建中海しを柳外 酒堂  
雪のまに心ぬ柳のこく 支考  
我す小枝のそらぬ柳外 如元  
川越て帯解小く柳外 岱水  
蟹のくくくまも柳外 支考  
くれちらふまのくぬく柳外 等盛  
五六かきくくく柳外 去来  
精進のりくく柳外 巴弓  
隙の好く柳外 藤守  
のくくく柳外 虎巻  
道のく柳外 扇更  
ま柳外 蕪村



青柳の影をうけても静し 千代

ふつかけし庭に柳の影 青蘿

と夜ふきし影をうけても 柳の影

たつとも何ふもくも柳の影 木葉

と柳の影をうけてもくもくも 希因

と柳の影をうけてもくもくも 蓼子

下萌 下萌の影をうけてもくもくも 惟然

草芽 草芽の影をうけてもくもくも 和之

看井 看井の影をうけてもくもくも 鬼市

春神 春神の影をうけてもくもくも 此節

紫曉 紫曉の影をうけてもくもくも 乙由

二折 二折の影をうけてもくもくも 紫曉

子祐 子祐の影をうけてもくもくも 紫曉

藤臺 藤臺の影をうけてもくもくも 子祐

芥 芥の影をうけてもくもくも 十丈

諸九 諸九の影をうけてもくもくも 芥

文草 文草の影をうけてもくもくも 芥

芥 芥の影をうけてもくもくも 芥

大江丸 大江丸の影をうけてもくもくも 芥

二柳 二柳の影をうけてもくもくも 芥

文素 文素の影をうけてもくもくも 芥

一鼠 一鼠の影をうけてもくもくも 芥

莫二 莫二の影をうけてもくもくも 芥

一笑 一笑の影をうけてもくもくも 芥

支者 支者の影をうけてもくもくも 芥

蓼子 蓼子の影をうけてもくもくも 芥

圃更 圃更の影をうけてもくもくも 芥

可董 可董の影をうけてもくもくも 芥

芥 芥の影をうけてもくもくも 芥



雪解

雪をけける青や秋ま令し伴 氷固  
雪をけや梅や雪をけ人たり 二柳

氷解

氷をけて鮒う池のひりし 唐介  
梅柳や日さぬうらみみ 北枝

霞

霞をけ大井さくうらま 露沾  
沙茶やあふうらうら 涓泉  
飛をけうらぬうらま 鴉動  
うらぬうらぬたむら 雁夫  
夕をけ下りてうらひく 玄兔  
牛乳のむぬくうら 一鳳  
夜の息干ぬるとさく風 許六  
うらぬうらぬうらぬ 為有  
うらぬうらぬうらぬ 来山  
古風や赤葉の干ぬ風 馬佛

春風

鶯

鶯風や堤きして家をし 蕪村  
鶯風のうさうさや 青蘿  
ひびくこと風をうら 水田 馬印  
うらぬうらぬうらぬ 芭蕉  
うらぬうらぬうらぬ 蘭更  
深溪の洗うらぬ 蕪村  
うらぬうらぬうらぬ 千代  
うらぬうらぬうらぬ 曲翠  
うらぬうらぬうらぬ 曾米  
うらぬうらぬうらぬ 芭蕉  
うらぬうらぬうらぬ 北枝  
うらぬうらぬうらぬ 曾良  
うらぬうらぬうらぬ 若菜  
うらぬうらぬうらぬ 風國

鶯



雪のふりよの敷の風ころ 野坡  
 鶯のささくさくさく 若本  
 雪のふりよの敷の風ころ 皆可  
 雪のふりよの敷の風ころ 蓼太  
 雪のふりよの敷の風ころ 賀月  
 雪のふりよの敷の風ころ 素露  
 雪のふりよの敷の風ころ 堤岸  
 雪のふりよの敷の風ころ 猿垂  
 雪のふりよの敷の風ころ 南里  
 雪のふりよの敷の風ころ 壺中  
 雪のふりよの敷の風ころ 山只  
 雪のふりよの敷の風ころ 梨一  
 雪のふりよの敷の風ころ 斗入  
 雪のふりよの敷の風ころ 山只

白魚

傀儡の赤れあつらふ声 夏江  
 白魚の便りよそらみされ 芭蕉

白魚のふりよの敷の風ころ 秋風

白魚のふりよの敷の風ころ 安眠

白魚のふりよの敷の風ころ 又翁

白魚のふりよの敷の風ころ 青蘿

白魚のふりよの敷の風ころ 芭蕉

白魚のふりよの敷の風ころ 去来

白魚のふりよの敷の風ころ 露川

白魚のふりよの敷の風ころ 史邦

白魚のふりよの敷の風ころ 二柳

白魚のふりよの敷の風ころ 千代

白魚のふりよの敷の風ころ 素鈎

猫意

猫の泣き声のこころ 芭蕉

猫の泣き声のこころ 去来

猫の泣き声のこころ 露川

猫の泣き声のこころ 史邦

猫の泣き声のこころ 二柳

猫の泣き声のこころ 千代

猫の泣き声のこころ 素鈎



二月

二月 花はく本はくはくはく二月は 考

おぼえ三日はくはく二月は 大江

たはくはくはくはくはくはくはく 二押

たはくはくはくはくはくはくはく 青羅

知はくはくはくはくはくはくはく 大魯

かたはくはくはくはくはくはくはく 松元

二月 秋のまはくはくはくはくはく 免土

お雷 幼雷お悔つらとちへし 玉井

お午 お午やたのふお松はくはく 二柳

お午や 大智はくはく同日 豊

お午や ちおはくはくはくはくはく 蕪村

お午 いたつふ柿はくはくはくはく 普人

去しもの力つひらひらひら 杉風

恒誠はくはくはくはくはくはく 正秀

ねと人思のまはくはくはくはくはく 李由

一ふはくはくはくはくはくはくはく 李東

お佛 お佛はくはくはくはくはくはく 希因

お春 お春はくはくはくはくはくはく 捨石

くらたはくはくはくはくはくはくはく 曉臺

お丸はくはくはくはくはくはくはく 大江

お豆のまはくはくはくはくはくはく 史邦

お月 お月はくはくはくはくはくはくはく 芦角

お春のおはくはくはくはくはくはくはく 春橋

お原はくはくはくはくはくはくはくはく 梅真

おとらはくはくはくはくはくはくはくはく 希因

お青のおはくはくはくはくはくはくはく 青蘿

臘月

佛お

春月

恒集

被春



撰

三月十日のまじりくぬり撰ふ 也有  
撰あや塚の標本もの糞 徐寅

春

春あ 春のおやんふいけのさ夜 知白

春

春下 春のねやふねふふふふふ 杜若

春

春上 春のねやふねふふふふふ 鬼貫

春

春中 春のねやふねふふふふふ 晚翠

春

春下 春のねやふねふふふふふ 圃更

春

春上 春のねやふねふふふふふ 野水

春

春中 春のねやふねふふふふふ 素丸

春

春下 春のねやふねふふふふふ 秋光

春

春上 春のねやふねふふふふふ 知白

春

春中 春のねやふねふふふふふ 古帆

春

春下 春のねやふねふふふふふ 杜園

春

春上 春のねやふねふふふふふ 危草

いけう市 後鼻血なるの上 酒堂

陽を分けしと海との鳥の歌 和泉

てらほくや陽をけりて 史邦

陽をにけりてぬちいぬちなる 梨一

陽をぬえとるやぬえとるはと 蕉下

陽を布垂りて灰けの糟 其繼

陽をのりて田にちる椿ふ 曲翠

我思ひしれ陽をふらぬふ 白圃

入つてふ日しと花のうらみ 芭蕉

いふふふふふふふふふふ 乙刈

いふふふふふふふふふふ 乱絲

枯草けおしきりてとるもの 蝶夢

うらみとていふふふふふふ 圃更

ひりくさえてりやとるの水 青蘿

春

春



水の温 おのしとへ抱ひあうくよ春の水 大に丸  
あぬるひひやち獨りたりぬ 阿誰

種蒔 種つけて隔たりぬる野川京 辨石

種蒔 種蒔や馬のあふふしイセ 民古

麻酔 麻酔や子魚小魚のつらぬトキ 曉雨

畑寺 畑寺や刀ふふイセ 泉車  
うつくしむええて畑寺イセ 去来

畑寺 畑寺や刀ふふイセ 泉車  
ら〜くや里の山畑寺のほイセ 曉臺

畑寺 畑寺や瓜あしイセ 蕪村

山焼 山焼や若麗の峰イセ 布舟

焼野 焼野〜と青と吹出す焼野イセ 呼丁

焼野 焼野と小松の枝イセ 洞木

萩野 萩野の世イセ 芭蕉

本芽 本芽ついでまてイセ 牧童

本芽 本芽ついでまてイセ 牧童

本は芽やまゝ湯治イセ 淡々

食ふや本芽イセ 會社

世の中イセ 淳見

十本イセ 杜宇

子梅 子梅やぬえイセ 芭蕉

子梅 子梅や小舟イセ 布舟

子梅 子梅やいそイセ 也有

子梅 子梅らてイセ 曉臺

子梅 子梅のまイセ 芭蕉

子梅 子梅ふイセ 桃隣

子梅 子梅ふイセ 野坡

子梅 子梅ふイセ 是水

子梅 子梅のイセ 二柳

子梅 子梅のイセ 馬印

子梅 子梅のイセ 馬印

椿

橘木

子梅



松

雪のうらつてけし松のくね 紫重  
あめで数日ふさふさおのふ 園更

まぢしつねのふねやうれた 青蘿

若菜

ひらひらと風のふねやあまら 涼菟  
てれのこめおのこまふらふら 夏江

系

かけらよよのまてふいと梅 遅望  
いさよふらふらふらふらふら 龍石

お花

お花や花はまふ南の南つ 佳南  
お花や花のいさよふらふら 曉臺

お花や花のいさよふらふら 蓼太

お梅

お梅や花のいさよふらふら 野坡  
お梅や花のいさよふらふら 紅石

お梅や花のいさよふらふら 蝶差

お梅や花のいさよふらふら 羅人

お梅や花のいさよふらふら 千代

嵐

お梅や花のいさよふらふら 嵐雪  
お梅や花のいさよふらふら 几董

お梅や花のいさよふらふら 人江丸

土筆

お梅や花のいさよふらふら 吞水  
お梅や花のいさよふらふら 杏林

指活

お梅や花のいさよふらふら 嵐雪  
お梅や花のいさよふらふら 芙蓉

五加才

お梅や花のいさよふらふら 虫象  
お梅や花のいさよふらふら 路通

萩芽

お梅や花のいさよふらふら 羅城  
お梅や花のいさよふらふら 園女

芦芽

お梅や花のいさよふらふら 園女  
お梅や花のいさよふらふら 牧童



たはるもあこらへて伸上<sup>上</sup> 雲郎

芥末 為由もさうふまゝに芥末 其角

兼平 菜島まゝぬとぬまゝ花之れ 芭蕉

母へまやふまゝぬまゝぬまゝの縁 采山

ふのこれふれふれふれふれ 東明

ふのこれふれふれふれふれ 毛純

ふのこれふれふれふれふれ 曉臺

菜のまゝぬまゝぬまゝぬまゝのふ 遠巴

兼平 兼平ぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 青蘿

陸子 陸子のまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 雨拍

一いつふ青ふぬまゝぬまゝぬまゝ 和及

陸子ぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 涼菟

られぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 諸九

諸接を日ぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 乙由

風流てふあやふも 怪 へ江丸

おまゝぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 蕪村

雨やにまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 千代

田れぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 青蘿

雪圍やあゝぬまゝぬまゝぬまゝ 風律

やゝぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 一笑

雀の家ぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 流志

てふぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 芭蕉

てふぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 園女

雪のぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 土音

ものぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 圃更

蜂のぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 蘭二

蜂のぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 大江丸

ぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝぬまゝ 支考

田舎

蝶

蜂



くふあふくろくろくしとる田畑こま 愚心

陸ころり井生の水や田こま 曉臺

春鳥 尻声よふと鳴あつかき 鞍風

一振つく飛ぶささきこま 二柵

鳥居 うるう飛くこやおまの嬢居 丈草

けここれいんまなるよ山田こま 大魯

冷のたのふ氣極こま 春鏡

下けて門内こま 蕪村

ゆきくこころこま 涼菟

引籠 日のぞらこま 方廣

引つみのまこま 后覺

引鴨 引まづつこま 古航

雲雀 雲よこま 未拙

鳥歸 扱こま 斗入

雲雀 砂川こま 許六

ふろこま 惟然

かせ身こま 浪化

ちちこま 南甫

枝の本こま 北童

氷のこま 北枝

若菜こま 乙由

吹風こま 風國

細こま 羅川

ちこま 如行

小こま 枹材

いこま 榮枝

時とこま 一保

雉



おのひまの河のさしゆる船聲 千那

とつとあつむのつらひ船の声 吾仲

大佛やうしろはひく船の声 蝶夢

かろつとさよふ風有さし声 二榊

船つてははなはたひくしき 蘓守

燕 燕 燕 燕 燕 燕 のひくい節 水甫

そふふふと土よすし燕也 也有

つふふふふは出らふ燕のね 長水

大和のけしきもさうふも燕也 蕪村

燕つてはてりしつらふもあれ 空應

燕 燕 燕 燕 燕 燕 のうれまふ也 伏青

燕 燕 燕 燕 燕 燕 のうれまふ也 古帆

燕 燕 燕 燕 燕 燕 のうれまふ也 以琴

燕 燕 燕 燕 燕 燕 のうれまふ也 三千風

若軒 若軒 若軒 若軒 若軒 若軒 若軒 の一角ふたぬねり 才登

小船 小船 小船 小船 小船 小船 小船 のふふふふふふふ 爲有

船波 船波 船波 船波 船波 船波 船波 のふふふふふふふ 露言

槻 槻 槻 槻 槻 槻 槻 のふふふふふふふ 大気

夕照やまのふふふふふ 蘭更

村のハ松のふふふふふ 昆明

あすのふふふふふふふ 惺和

陰や三日の月くふふの海 由平

陰のころくしつらふ二丁波也 蘭更

寄屋 寄屋 寄屋 寄屋 寄屋 寄屋 寄屋 のふふふふふふふ 天垂

海苔 海苔 海苔 海苔 海苔 海苔 海苔 のふふふふふふふ 芭蕉

海苔 海苔 海苔 海苔 海苔 海苔 のふふふふふふふ 尺州

孕麻 孕麻 孕麻 孕麻 孕麻 孕麻 孕麻 のふふふふふふふ 紫曉

春深 春深 春深 春深 春深 春深 のふふふふふふふ 行流



歌書 市中やろふけり几中 涼菟  
 三木ののうねるや几中 才磨  
 三つある心こぼさやいらのうら 晴臺  
 几中よりく人安氣里西 大江  
 くのうらこのうのうのうら 蕪村

三月

二月 三月や清なるの流さうて 信徳  
 弥生 三つうら風や海生の水の音 東義  
 離 離去す山径のうらや三月月 荊口  
 離さうの烈やあう後声 國之  
 離の叙るれさう松は旭の般 吾仲  
 離の間よとくおれてくは佛部 曉臺  
 松柳とらるる離の額はよ 蝶夢

出代

すけさる登不のうりし後般 雪芝  
 般よりむひらめとまう人海部 其角  
 松風とらるる屋しる海部 翰士  
 小浜老とく海部の流は水 二柳  
 出代や人ほまの二日月 也有  
 出代や牛合息して小系近 其角  
 出代の井戸は海き突く般 大江丸  
 ぶまふ病よつれさきまねのふか 千那  
 へお ゆる菊の心はうらとれ水 寄節  
 花 ゆひりこやむれあうの羽三梅 芭蕉  
 後もくれも花やうを十五六 介我  
 年およ女まものうりる堂 言水  
 花の雨網は塩とらるる 仙化  
 春の跡てはなちこはくうら 立志



花さうりつひもそぬ法沙ハシ 三止  
 生い又相違来て後人家の下 千那  
 花はすの月教は清す衣ぬ 去来  
 花をよんあやうわ小娘ひ 千梅  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 丈牘  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 北枝  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 路通  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 漁川  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 千梅  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 風睡  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 正秀  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 如體  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 杉風  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 朱拙

十六

傘さうりつひもそぬ法沙ハシ 桃隣  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 芦葉  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 去来  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 聖牙  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 李由  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 替月  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 風堂  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 卯七  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 虎通  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 一音  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 其用  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 松兄  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 大江元  
 花さうりつひもそぬ法沙ハシ 史部

花



栞

振りて銀のそらりたらり 山店  
 白き木の村ありしころ 其由  
 庭のしほふらふらふら 三葉  
 たゞしうの麻の蓋形やと栞 一葉  
 後や人の竹のふらふら 柳玉  
 又もふらふらふらふら 許六  
 つらふらふらふらふら 一洞  
 大井のふらふらふら 木導  
 夏草の名もふらふら 李由  
 心もふらふらふら 木密  
 大石のふらふらふら 汶村  
 かけこむや紙あつてふら 曉臺  
 百石のふらふらふら 許六  
 中もふらふらふらふら 竹阿

栞

海栞

又ふらふらと栞がふらふら 関雪  
 世の中ふらふらふらふら 蓼太  
 老木も人の栞ふらふら 松元  
 又つらふらふらふら 千四  
 流る木もふらふら 興道  
 一本つらふらふらふら 木采  
 塩鴨のせとやふらふら 枯竹  
 一本ふらふらふらふら 也有  
 枝のふらふらふらふら 羅城  
 ろふらふらふらふら 湖雀  
 ふらふらふらふらふら 希周  
 冷ゆふらふらふらふら 曲翠  
 藤のふらふらふらふら 荻人  
 ふらふらふらふらふら 青羅



月ふらり〜花の夜 曉臺

その心〜花の夜 千代

梨花 花の心〜花の夜 波村

〜花の心〜花の夜 除風

〜花の心〜花の夜 支考

おん小枝の歌〜 梨の糸 也有

昔花 笑つれて〜花の夜 稻丸

海棠 海棠の心〜花の夜 普葉

海棠や〜花の夜 暁臺

本蓮花 雨つ〜花の夜 言語

薔蹄 心〜花の夜 支鳥

心〜花の夜 文帖

〜花の心〜花の夜 活冊

〜花の心〜花の夜 活冊

藤 門のつら〜花の夜 二柳

心〜花の夜 千那

流の〜花の夜 暁臺

〜花の心〜花の夜 千代

〜花の心〜花の夜 蓼太

連翹 心〜花の夜 麦由

連翹や〜花の夜 二柳

心〜花の夜 望翠

心〜花の夜 蘭更

心〜花の夜 惟中

心〜花の夜 白空

心〜花の夜 花洲

菊 心〜花の夜 朋水

心〜花の夜 支幽







羽衣の白くははしを差しぬ 千 浅見  
 羽衣を差しぬ 千 大書  
 羽衣を差しぬ 千 野水  
 羽衣を行何や 千 曉堂

夏

五月

白重

羽衣を傍小うらー白重

山登

更夜

麻屋の暖差白ー衣

利生

衣之山に重たれ

乙由

衣よりやれとぬや衣之

雪笠

衣之山より日南人か

幸木

衣之山より日南人か

鬼買

西りも娘持

文春

塩魚の

風雲

名聞が

雪舟

衣之山より日南人か

嵐

音之山より日南人か

蘭更

けりて

蕪村







いづこいづこ人のあはれも守 貞  
 系よめてあはれしやふと守 芭蕉  
 時を流しんやあはれしり  
 ころあはれし人のあはれし 鬼貫  
 時を流しんやあはれしり  
 時を二つの橋の渡の系 惟  
 不ふふ守あはれしあはれし 萬平  
 本城ついで本あはれしあはれし 壽仙  
 千那と井あはれしあはれし 千那  
 夕あはれしあはれしあはれし 山店  
 時を流しんやあはれしあはれし 千色  
 時を流しんやあはれしあはれし 酒屋  
 時を流しんやあはれしあはれし 北枝  
 社を流しんやあはれしあはれし 野城

舞を流しんやあはれしあはれし 千梅  
 川城の連中よあはれしあはれし 大沖  
 乳茶古茶やあはれしあはれし 諷竹  
 時を流しんやあはれしあはれし 希園  
 月を流しんやあはれしあはれし 嵐雪  
 時を二つあはれしあはれし 浪化  
 時を流しんやあはれしあはれし 言水  
 時を流しんやあはれしあはれし 杉風  
 時を流しんやあはれしあはれし 大沖  
 時を流しんやあはれしあはれし 岱水  
 子流しんやあはれしあはれし 瓢水  
 時を流しんやあはれしあはれし 橋良  
 逢前麻柳あはれしあはれし 一音  
 男あはれしあはれしあはれし 千代



夜

夢太  
 猿  
 二柳  
 青蘿  
 儿董  
 圃  
 夢太  
 無村  
 為重  
 諷竹  
 千代  
 希周  
 春考

牡丹

野明  
 鞭石  
 葉文  
 海棠  
 汶村  
 嵐雪  
 釣臺  
 風國  
 無村  
 青蘿  
 十代  
 大兄  
 推妖  
 大兄

夜

牡丹  
 大兄  
 推妖  
 大兄



豊稔

いふふのきまられりけり花 支考

かたふは思はれりけり花 本導

けりけりのきまられり花 音羅

けりけりけりけりけり花 二柳

けりけりけりけりけり花 臥夫

けりけりけりけりけり花 占徳

けりけりけりけりけり花 去来

けりけりけりけりけり花 曉臺

けりけりけりけりけり花 扇更

けりけりけりけりけり花 風睡

けりけりけりけりけり花 蕪村

けりけりけりけりけり花 千代

けりけりけりけりけり花 游方

けりけりけりけりけり花 大沖

豊秋

麦の穂よつとや花のまゆり 野坡

麦秋の身のとれふりけり 風喬

麦刈より風のころこむ 瓢水

麦秋はたしふりてあひり 也有

麦秋のころこむとよむ 紅雪

麦の葉にあつとよむとよむ 鬼貫

麦の上はじしつとよむとよむ 山嵐竹

麦のころこむとよむとよむ 蕪村

麦のころこむとよむとよむ 扇更

麦のころこむとよむとよむ 白尾

麦のころこむとよむとよむ 土芳

麦のころこむとよむとよむ 呂丸

麦のころこむとよむとよむ 兒童

麦のころこむとよむとよむ 曉臺



山よこして小舟漕りやうと邦 蕪村

あふれしと親とよ流に存るぬ 几董

晩鐘のまもちぬけうとが 千代

如た 卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 秋の坊

卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 支考

卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 希因

卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 几董

卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 千代

卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 蕪村

卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 青羅

極實 卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 一路

素縁 卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 里七

卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 方廣

卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 嵐竹

こゝちの旭のいろやあ楓 未止

桐のま 尾古ちちいとされとも指のま 乙由

桐の本やまよくととも思ぬよ 老磨

雷の鳴してらりぬ相のむ 史邦

うらもせしうらもせし相のむ 也有

右歌 卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 二柳

卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 風律

菰接 卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 遊林

玉巻鳥 卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 麦浪

蚊 卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 麦水

蚊 卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 二柳

卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 團更

卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 蕪村

卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 来山

蚊帳 卯のまはたおまゝとよ流に存るぬ 来山







かゝる名が風の責る五月か京 凡兆

五日さして流るるつやうに 拙隣

舌刀の五條と通る露のかけ 乙由

あやう州兼河の影にせら 木枝

山嵐の京かえりてのむす 希因

言水

萬子

青流

桃隣

李吟

乙由

乙由

諸九

願更

競馬 紙をうねりよみかきうへる 几董

竹研 井池にえは流るるうら 曉塵

高浦 比入る小舟をかきあやめか 拙負

洋 波やうねりてのうら 希因

洋 波やうねりてのうら 希因

洋 波やうねりてのうら 希因

洋 波やうねりてのうら 希因

洋 波やうねりてのうら 希因

洋 波やうねりてのうら 希因

洋 波やうねりてのうら 希因

洋 波やうねりてのうら 希因

洋 波やうねりてのうら 希因

川骨 川骨やうねりてのうら 希因

川骨 川骨やうねりてのうら 希因

川骨 川骨やうねりてのうら 希因



草葉 引ふしはれをーと夏草印 尚白

草花 陽明草やうんきやうめさねれ花 乙由

草花 若の花松こはくしれ木草花 馬印

草花 たけのうめ草のうんきやうめさねれ 山店

草花 ちりめん草のうんきやうめさねれ 千代

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 文雅

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 大江

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 此原

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 芭蕉

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 嵐雪

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 東志

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 希因

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 旭芳

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 加芳

夏

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 千那

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 支考

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 素繪

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 斜筆

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 朱

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 史邦

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 配力

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 鬼貫

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 此筋

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 杜宇

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 蕪村

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 蝶夢

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 大曾

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 重頼

草花 赤い草のうんきやうめさねれ 重頼



なすしし小秋あししつるまし部 可董  
接しのしへしはし接しるしるし部 巾舟

事

筆しの折しるし音しひしくしふしるし部 漢茂  
筆しの追しひしぬしれしるし接しれし部 探芝  
筆しのしりし受しのししししし 支考  
なしやしこし日しのしうしらしたしましらし 千代

美并

美并しのしましのしうしやし四十雀 風國  
根しがしおしるしあしらしうし音しへしとし部 探良

美并し小しおしふし一しましのしあしらしがし 大江丸

青梅

青梅しもしこしうしのし替しのしふしひしふし 杜旭  
枇し把し 人しのしやしをしのし枇し把しうしふし鳥し 葦常

梅花

梅花しのしふしのし梅しよしふしのしふしぬし部 芭蕉  
うしすしふしもしましのし梅しもしるし梅しがし 乙由

梅葉

梅葉しきしがし古し葉しふしのしましのし梅し部 美考

梅葉

梅葉し揚しるしもしつしくしやしうしのし部 乙由  
なしらしぬしやしふしらしぬしのしましのし部 春楓

抽葉

抽葉し 一し枝しはしらしひしとしらしるしをし梅し部 蓼冬

松梅

松梅しをしましらしるしあしのしうしをし梅し部 重厚  
栗しをし雷しのし門しのしれしらしうしのしれし 梅貞

梅葉

梅葉しはしあしるし音しとしらしれし部 乙由

梅葉

梅葉し梅しつしりしぬしとし日し月しのし門しのし部 青森

梅葉

梅葉し木のし枝しのし後しをし押し上してし梅し部し 古道  
ましましのしましましとしあしらしるし梅し部し 支考

梅葉

梅葉し田しのし軒しのし梅しやしうしらしひしとし半し 海子  
梅しのしあしらしひしけしてし同しうしのし部 几董

梅葉

梅葉しあしらしひしくし小し葉しのし合してし梅し部し 乙由







梅雨

白雲やよもも晴る梅雨の中

不干

白梅やよもも晴る梅雨の中

都支

水鏡

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中

弘氏

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中

北枝

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中

伯之

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中

蘭更

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中

青蘿

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中

溜川

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中

鬼貫

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中

一魚

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中

圃更

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中

嘯山

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中

窓巴

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中

行山

種別

いせ夜や精のすむ夜風の音 馬佛

里川や精のすむ夜風の音 采山

又あのをよもも晴る梅雨の中 去来

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中 史明

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中 曉臺

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中 芭蕉

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中 蘭子

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中 野狂

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中 萬年

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中 昔本

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中 青嶽

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中 大草

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中 正秀

水鏡の風をよもも晴る梅雨の中 也右

螢

精舞







五月の雨のちかぢきとあつた  
草花のつぼみはあつた  
五月

六月

六月の雨のちかぢきとあつた  
芭蕉

六月の雨のちかぢきとあつた  
鬼首

六月の雨のちかぢきとあつた  
鹿谷

六月の雨のちかぢきとあつた  
蓼太

水音  
六月の雨のちかぢきとあつた  
芭蕉

水音  
六月の雨のちかぢきとあつた  
寒魚

氷室  
六月の雨のちかぢきとあつた  
言水

氷室  
六月の雨のちかぢきとあつた  
二柳

氷室  
六月の雨のちかぢきとあつた  
大紅丸

氷水  
六月の雨のちかぢきとあつた  
二柳

一夜酒  
六月の雨のちかぢきとあつた  
盤水

富士病  
六月の雨のちかぢきとあつた  
沾湖

田のちかぢきとあつた  
寒魚

彼を  
六月の雨のちかぢきとあつた  
蕪村

六月の雨のちかぢきとあつた  
曉臺

柳接  
六月の雨のちかぢきとあつた  
三圃

六月の雨のちかぢきとあつた  
蕪村

草花  
六月の雨のちかぢきとあつた  
言水

六月の雨のちかぢきとあつた  
蕪村

風書  
六月の雨のちかぢきとあつた  
蘭葉

六月の雨のちかぢきとあつた  
窓巴

六月の雨のちかぢきとあつた  
芭蕉

青嵐  
六月の雨のちかぢきとあつた  
史邦

六月の雨のちかぢきとあつた  
重厚



南

南風吹くつれとあさん土用丁 去来  
南の風吹くつれとあさん土用丁 羅城

虫

虫の音もあつた 大紅丸  
虫の音もあつた 大紅丸

暑

暑の日はあつた 昌茄  
暑の日はあつた 昌茄

暑の日はあつた 枝風  
暑の日はあつた 枝風

暑の日はあつた 時中  
暑の日はあつた 時中

暑の日はあつた 氷巻  
暑の日はあつた 氷巻

暑の日はあつた 遅望  
暑の日はあつた 遅望

暑の日はあつた 素堂  
暑の日はあつた 素堂

暑の日はあつた 其角  
暑の日はあつた 其角

凍

凍の日はあつた 二柳  
凍の日はあつた 二柳

凍の日はあつた 許六  
凍の日はあつた 許六

凍の日はあつた 夢太  
凍の日はあつた 夢太

凍の日はあつた 也育  
凍の日はあつた 也育

凍の日はあつた 千代  
凍の日はあつた 千代

橋

川の橋もあつた 芭蕉  
川の橋もあつた 芭蕉

川の橋もあつた 蘭子  
川の橋もあつた 蘭子

川の橋もあつた 去来  
川の橋もあつた 去来

川の橋もあつた 宗次  
川の橋もあつた 宗次

川の橋もあつた 一珍  
川の橋もあつた 一珍

川の橋もあつた 園女  
川の橋もあつた 園女

川の橋もあつた 其角  
川の橋もあつた 其角

川の橋もあつた 嵐  
川の橋もあつた 嵐

川の橋もあつた 乙由  
川の橋もあつた 乙由



白雨

白雨のたや三谷のひの本下路 蘭舟  
 夕まのこけ枝まつら 利牛  
 夕まのこけ枝まつら 李由  
 夕まのこけ枝まつら 徐富  
 夕まのこけ枝まつら 馬印  
 夕まのこけ枝まつら 白仙  
 夕まのこけ枝まつら 雲風  
 夕まのこけ枝まつら 宗比  
 夕まのこけ枝まつら 夢次

泉 赤

泉 物谷此度染よつた 方廣  
 赤 赤らけ蘇志ハ涼一縁の上 也有  
 八橋 大佛ととらひのこけ枝まつら 范果  
 去来 馬印







花はくれつ不そし月のまきぬ 園更  
雁種 尾れ不や子代のぬいて移りぬ 可園

夕光 夕光のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 九兆

色蕉 色蕉のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 乙由

何中 何中のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 二柳

大気 大気のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 馬印

嵐竹 嵐竹のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 惟然

惟然 惟然のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 騷道

騷道 騷道のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 等般

等般 等般のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 紫暁

紫暁 紫暁のぬれぬのぬれぬのぬれぬ

石竹 石竹のぬれぬのぬれぬのぬれぬ

綿む 丹波路や綿の糸のぬれぬぬ 園更

園更 園更のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 風皆

風皆 風皆のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 浪化

浪化 浪化のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 谷水

谷水 谷水のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 色蕉

色蕉 色蕉のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 曉堂

曉堂 曉堂のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 蕪村

蕪村 蕪村のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 涼菴

涼菴 涼菴のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 色蕉

色蕉 色蕉のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 希因

希因 希因のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 尚白

尚白 尚白のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 万居

万居 万居のぬれぬのぬれぬのぬれぬ 鬼貫



霞の音のしむや風のやうな 紅石  
 並松や二とら西の霞のまの 孤山  
 山岡の吹とまゝの風のまの 空芽  
 相の本のまゝのやのたれまの 萩人  
 とのの葉のまゝのまのまの 昌物  
 松風のまのまのまのまの 千代  
 川うらや習ふまゝのたれし 杜若  
 扱られてまゝのまのまの 此筋  
 三日月や細よほまのまの 從昔  
 いかやまゝのまのまの 二柳  
 秋とまゝのまのまの 汶村  
 秋とまゝのまのまの 除風

川精

秋道

秋

七月

五秋

ひつくと木葉動て秋とま 兎貫  
 秋とまのまのまのまの 浪化  
 秋とまのまのまのまの 北枝  
 秋とまのまのまのまの 角上  
 秋とまのまのまのまの 尚白  
 秋とまのまのまのまの 也者  
 秋とまのまのまのまの 二柳  
 秋とまのまのまのまの 児童  
 秋とまのまのまのまの 大江瓦  
 秋とまのまのまのまの 青羅  
 秋とまのまのまのまの 蓼太  
 秋とまのまのまのまの 路健

秋枝



秋夜雨降ききり子つる雨 毛純  
 秋夜雨降ききり子つる雨 采徳  
 秋夜雨降ききり子つる雨 二柳  
 秋夜雨降ききり子つる雨 松元  
 七夕やすすきとる川の流 錢花  
 七夕やすすきとる川の流 荊口  
 七夕やすすきとる川の流 嵐雪  
 七夕やすすきとる川の流 速雅  
 聖徳 せうとくはあまのついで 燕下  
 酒のうとぬく酒のむすま 去来  
 早合 早合のまはあまのついで 青羅  
 早合 早合のまはあまのついで 涼菟  
 早合 早合のまはあまのついで 几董  
 清への教由ひきけて早合 園女

枕洗 七夕や枕のまはあまのついで 吉女  
 勢橋 勢橋のまはあまのついで 大江丸  
 天の川 横とるよまのついで 此筋  
 大切なあまのついで 其角  
 天の川 天の川はあまのついで 蘭更  
 月うけも片はあまのついで 珈凉  
 秋月 秋月のまはあまのついで 卓袋  
 盆月 盆月のまはあまのついで 野坡  
 秋の月 秋の月のまはあまのついで 青雅  
 暮来 暮来のまはあまのついで 如七  
 故のまはあまのついで 蘭更  
 魂来 魂来のまはあまのついで 乙由  
 宿のまはあまのついで 卓袋  
 魂来 魂来のまはあまのついで 泥足



野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城



櫻

幸路の風の形と花の香を大和の葉香  
 かくしけ枝交後三ノ角力より 芭蕉  
 面おけよしのころたつ角力 芥子  
 下帯いさゝかの中もさる角力 許六  
 角力りの後さうとらたの声 木鼻  
 白浪のこのさしゆいさうれ 盛弘  
 雪の角力ほのさうさうの山 大江丸  
 前よりぬ風まじりて秋あらし 指華  
 梢よりまてあらし秋のつづき 支考  
 さよふ葉よおちや花さきの上埃 北枝  
 朝のつづきいさうしてあらし 千代  
 秋のやうに後たつらるる風外 乙由  
 秋あらしさうさうさう栗のいろ 芭蕉

猿蓑

秋風

秋風

鶉の尾ふつれりうみあらし 荆口  
 身ま入ると入根うらし秋の風 芭蕉  
 大根の二葉よさうや秋の風 素覽  
 流木の個なこころや秋の風 千那  
 川さやさうさうさう秋の風 従吉  
 生ぬさや坂を押しける秋の風 志井  
 秋風やこれ眼のこころ海鏡堂 風律  
 春の根やかとうら秋の風 凡兆  
 さしゆいさうさうさう秋の風 汶村  
 ころくしと西風さうさう秋の風 陽和  
 晴るさうさうさう秋のこせ 蝶夢  
 空の後のさうさうさう秋の風 大江丸  
 秋風や丁真うけさうさう後庭 蕪村  
 一とらりさうさう秋のこせ 青羅



秋雨

秋風や巻くふらふらと暮る 曉暈  
秋の過るまじき雨の音

産

秋の心算のまゝのちりりたる 流霞  
菜島の一住ひや秋のつゆ 李由  
秋つちや飽のうらふまゝ一く 吹峰  
白雲のあつち出るよあふさう 児圭

香

白雲や秋のくらふ一ツにけ 蕪村  
大粒よまきつちさう一ふの乳 青蘿  
我らふみ持まきまの世に海 大丘丸  
流霞の并ふや香のびいり 北枝  
芳ふら年中のちりや味の松 卓夫  
秋のくちやふかきくちの香 毛純  
朝川やあはれ入るれ中 團更  
霜妻 白つらふらふらふらぬおの 嵐

掃つちのいれとあつちや 大真

いよつちふらふらふらふら 洞梨

いよつちふらふらふらふら 魯所

いよつちふらふらふらふら 露

掃つちやまはらふらふら 舍羅

掃つちのぬらふらふら 史邦

掃つちやらふらふらふら 千代

掃つちやらふらふらふら 吾仲

掃つちやらふらふらふら 桃妖

掃つちやらふらふらふら 芭蕉

掃つちやらふらふらふら 涼菴

掃つちやらふらふらふら 黒耳

掃つちやらふらふらふら 安永

掃つちやらふらふらふら 野



あついでしきくおんうきを  
かみむ時菊のまのませしこ由

秋風とらうとてふさうきさむ

かみむおんうきを  
青蓮

秋海棠  
ののほらとねこや秋の  
香薷良

松楓  
おみしと念む松楓のこは露川

ひた月のひふくれる松楓  
琵琶

松楓  
村ものこく沈む松楓  
幾葉

まき  
さかものこく松まき  
芭蕉

ふゆのたふらぬ松  
蘭二

蘭  
まきのこく松まき  
萬乎

まきのこく松まき  
青蓮

まきのこく松まき  
青蓮

薄  
あついでしきくおんうきを

あついでしきくおんうきを  
昌房

あついでしきくおんうきを  
其槽

あついでしきくおんうきを  
北枝

あついでしきくおんうきを  
玄梅

あついでしきくおんうきを  
去来

あついでしきくおんうきを  
諸九

あついでしきくおんうきを  
蓼太

あついでしきくおんうきを  
二柳

あついでしきくおんうきを  
石圃

あついでしきくおんうきを  
理玉

あついでしきくおんうきを  
二柳

あついでしきくおんうきを  
路春

あついでしきくおんうきを  
有香

あついでしきくおんうきを  
有香



野菊

常不したるてまゝのむ 風國

つゝの世もれとてい原に 柳妻

萩

たうとらう人ぞうまふ秋菊に 北守

そのれたや二葉入瓶ふ萩のむ 專明

水うらや丸鴨の歌、萩下 園更

白萩やいとしひのるゝ氣初 青羅

ふやふふつけてまはは萩 鬼貫

萩

萩垣やほはまきとてそのれる 黄唇

風の音萩こゝろをいびく人 大江

萩や海ふうれて萩のこゝろ 斗入

萩の月おとらうりぬ萩のこゝろ 蓼天

萩

あれとてまふつゝのるまが 芭蕉

心直し風のこゝろしきうぬ 休計

あつらふまふまふまふまふまふ 鬼貫

月がまゝかゝりてまゝのぬ 希國

まゝのれいさの風ふくまゝのぬ 二柳

夕言としくまゝのるまゝのぬ 曉臺

かゝりてまゝのれいさのぬ 几董

一のりのれまゝのぬまゝのぬ 園更

萩

むしとむしとむしとむしとむしと 盛弘

むしとむしとむしとむしとむしと 萬子

尾

秋の日は萩の村尾のぬ 青羅

夕烟おの尾をふらうれり 祐昌

尾

餘のおより揺るまゝのぬまゝのぬ 乙由

は切のやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 素荒

義仲や舟のいさゝかゝゝゝゝゝゝゝ 泊舟

猫くらの車も海一登のまゝ 水谷

山さやんいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 仙化



瀟葉

思ふ代はくひとねらふも一矢

梳花

異ともしのこつひのむ 游方

ひての流きもかおいねのそね 露川

四世福

子橋のまや舟中のるのんせ入 曲翠

又橋刈や清の河ふか二番草 露川

夕くれや子橋たちのひてくま 松鶴

子橋のまや舟中らとらな夜 支考

りんか門田の子橋と初つり 之道

産幸

寝臥は極あはせりりるし 史邦

やう枝の枝やふけりるし 支考

露草

家まやたうけおてぬるし 呂曉

さふそのころりと清てぬるし 團更

風仙宗

誰のけ眼のちすまや風仙宗 甘雨

西凡

猪の鼻くすつる西凡お 灯士

芋差

齒の後のまよいやうに西凡お 梨旭

芋

いひくや夕月をむなやう水 山川

又のころんお毎くの月の号 大江丸

一葉

栢の葉はあてもしやよ度あ 鬼貫

たつらうと一葉のちや松の上 有収

暎のまもこ中らう一葉ふれ 蓼太

老朽

あはくおつて柳のまも日か 芭蕉

柳ちうややまらうと陸の目 土芳

こいーとやを井もこる柳 壺中

あつちけとねらうとまはう柳 大江丸

本権

せんりあてくし本権お 知足

吹後、作向くおむけけお 乙由

あいのあまの蒼や本権 曉堂



雲

二月の角よそわら木樨 希因  
 灯のよまゆふゆや日枝の山 蕪葉  
 赤禪のいしむらさきやちのり 壺中  
 虫の音やあふけて洗はる中 園女  
 うらつくさゆふや秋の虫 文鳥  
 月清てまふらしの下もろく 蘭更  
 虫の音ふれはるる花が 青蘿  
 雲のまらやんばらちのりて 雲空  
 さくらんたよまらういりりん 文竹  
 菴声のまらういりりりり 乙由  
 紫鶴あふふらやまらりし 雲鈴  
 音のいりりりりりりりりり 感宇  
 種荷あつてまらやんばら 荻人  
 めらりりあふふらやんばら 除風

春

今さら命をぬらぬりりり 蓼太  
 居風さしもの入てまらりり 希因  
 寺は縁て縁のまらまらりり 二柳  
 軍とがし身はまらりりりり 青羅  
 後輩とくひひひひひひひひ 木葉  
 後輩のまらりりりりりりり 千代  
 こころをち若て居る縁の上 孤屋  
 棟のに京まらりりりりりり 羅城  
 後輩の浪よあいらいりりり 惟然  
 めらあやまら氷まらあいら 諸九  
 いりりりりりりりりりりり 蘭更  
 松まらららららららららら 車来  
 鈴まらららららららららら 桃既  
 鈴まら車音の音にりりりり 雪更



鈴子や雨と千枝のつむぎの 二柳

鈴子のつむぎのつむぎの 曉臺

便殿 ころもつむぎのつむぎの 千明

ころもつむぎのつむぎの 四睡

義忠 ころもつむぎのつむぎの 芭蕉

冬 ころもつむぎのつむぎの 仙水

刈りたるころもつむぎのつむぎの 野徑

刈りたるころもつむぎのつむぎの 其由

垣内 湯まゝとて 素のつむぎのつむぎの 麦光

秋板 此の葉と板のつむぎのつむぎの 野徑

秋蠅 秋の蠅たつむぎのつむぎの 渚舟

蠅たつむぎのつむぎのつむぎの 曉臺

秋蝶 秋のつむぎのつむぎのつむぎの 青羅

葉まゝのつむぎのつむぎのつむぎの 支考

酒のまゝとてつむぎのつむぎの 古帆

つむぎのつむぎのつむぎのつむぎの 秋臺

桐 桐やまゝとてつむぎのつむぎの 蝶夢

桐やまゝとてつむぎのつむぎのつむぎの 蝶夢

秋蝶 秋のつむぎのつむぎのつむぎの 示蜂

秋のつむぎのつむぎのつむぎの 青羅

声まゝとてつむぎのつむぎのつむぎの 曉臺

八月

八月

八朔 八朔とてつむぎのつむぎのつむぎの 評六

八朔とてつむぎのつむぎのつむぎの 祐昌

田舎 田舎もつむぎのつむぎのつむぎの 白雄

被屋 被屋もつむぎのつむぎのつむぎの 木導



敬亭

山花や菖草をうつけて敬亭舎 乙由  
敬亭舎花ハ井ノ水ニ流ルル

弱臣

弱臣ハ入道屋ナリハリ 正秀  
系多シクハ弱臣ノノリト

弱民

浪化  
ひく詔のまひやこねん時ノ海

清言

正秀  
清言ノ月ヲむくハハ

清言

希因  
清言ヤ望ミトキハハ海ノ松

清言

原松  
清言ヤ望ミノ余ハハ海ノ松

清言

二柳  
清言ヤ望ミトキハハ海ノ松

清言

如元  
名月ヤ望ミトキハハ海ノ松

清言

満春  
名月ヤ望ミトキハハ海ノ松

清言

木枝  
名月ヤ望ミトキハハ海ノ松

清言

芦角  
名月ヤ望ミトキハハ海ノ松

清言

言水  
名月ヤ望ミトキハハ海ノ松

清言

言水  
名月ヤ望ミトキハハ海ノ松

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松 志本

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松 芦本

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松 雨卷

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松 乙由

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松 雨盛

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松 園女

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松 怒風

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松 千代

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松 嵐雪

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松 青葉

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松 土芳

名月ヤ望ミトキハハ海ノ松 守武



月ととも松とある方け透いり 酒紅

舟ととも秋のまをれた月ととも 几重

月見 庭もふと庭影の月ととも 洞梨

寺とともては月ととも月ととも 芭蕉

酒宴ととも清ととも月ととも 正秀

新月 新月やとともふととも 舎羅

雨月 名月のもねとともは味ととも 千梅

家ととも小月の中とともの青 来山

十夜 月とともいも波の気とともは夕 千梅

いととも月の引とともは根ととも 宇鹿

十とともあや言とともは月の雪ととも 几重

音月 二日月やともは楸の極とともは月 十夫

影ととも花ととも葉の葉とともは月 杉風

いとともは花とともは月とともは月 桃膳

日 苗春の葉とともは月とともは月 曉臺

井ののたあつりした月とともは月 仙行

根の本のそくとともは月とともは月 鬼貫

そののやちのいとともは月とともは月 元昌

いとともは月とともは月とともは月 春水

香焚て我とともは月とともは月 海棠

月とともは月とともは月とともは月 近之

新秋とともは月とともは月とともは月 青蘿

風とともは月とともは月とともは月 曉臺

志つしとともは月とともは月とともは月 土芳

村とともは月とともは月とともは月 大江丸

葉とともは月とともは月とともは月 尚白

秋の夜とともは月とともは月とともは月 斗入

かぶとともは月とともは月とともは月 露川



無一ふものもいれぬ月おき 松兄

橘の露よりくもる夜の月 去来

月代や雀ごころつく萩の中 田鹿

望月 世にまよふ人よけひさぐ星月お 雨聽

初夜 お汐やそよ風のくさくさして 蓼々

秋暮 死にせぬ旅路のそよ風のれ 芭蕉

源三の橋うつりてし秋のくれ 乙由

大とれりて遠ひくら秋のくれ 角上

ものつゝぬ人そらぐら秋のれ 乙由

秋ぬらうせとや秋の秋のくれ 雲波

秋のくれ種の手おも廿日は 千梅

秋のあゝ海うしやにん秋のれ 野坡

日あゝりや多秋ごころ秋のれ 正秀

持さく巫女は懐く秋のれ 言水

夕ぐれは待とりや寺のれ 風國

竹まきくまを火くは秋のれ 元董

担まは心もくは秋のくれ 青羅

秋夕 扇風扇小束つく秋のゆふお 水魚

衣き 簾つふみちやく後うら秋を秋 正秀

ひらりと秋風のとてこの秋を秋 支考

町さひしお露てまゝいふ秋を秋 和色

旅人と橋本よ海うら秋を秋 大仲

おそに秋を秋のつる秋を秋 青蘿

川流のつぎうたゝ秋を秋 也有

木花よと秋を秋にしてる秋を秋 風麦

秋を秋のつるの秋を秋のつる 鬼貫

秋を秋のつるの秋を秋のつる 由仙

夕ぐれのかみも市に雲の秋を秋 大江丸



北窓 夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

雨 夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

秋夜 秋の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

永夜 永夜の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

暮風 暮風の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

日向 日向の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

月夜 月夜の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

夕陽 夕陽の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

朝露 朝露の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

雲霧 雲霧の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

山嵐 山嵐の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

芭蕉 芭蕉の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

松入 松入の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

紅葉 紅葉の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

白霜 白霜の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

暮色 暮色の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

夜半 夜半の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

曉堂 曉堂の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

秋夜 秋夜の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

永夜 永夜の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

暮風 暮風の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

日向 日向の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

月夜 月夜の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

夕陽 夕陽の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

朝露 朝露の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

雲霧 雲霧の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

山嵐 山嵐の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更

芭蕉 芭蕉の松や夕けのそとに北窓の松うれ 蘭更



種歌

二つおく人の心おふくしたる生備  
白りしをい昔いふくへ 凡此

種歌

冬風 おも凡甲をも紫し物らけし 圓木

鳥風 市人のあつてもつれ天 凡 担置

お房 おもかくこらさひー鳥風 蓼太  
初て平あつてたつていもの 千代

馬

おてや帆柱おこんわり舟 遅壁  
居居てまふ所れそよたけ 遥壁

胸一重まきやうてさうしん多 乙由  
そも冷らお中よひらーの多 大仲  
胸言よふてさきー月の丁 青羅  
わくつーしんさるおとあひら、

時

西のや口のしんをりーの節 曉臺

それまきーふつてさる園が 嵐更  
フ鳴て菊の一枝はなをさう 大江丸

うけ浪よおられてたうし時後 鏡臺  
眺こつて日ハ鳥まきなをさう 尚白

眺るはーひとら氷れ常うぬ 氷谷  
眺立て月まゆわね二月廿 團更

波

眺るはつてさうしんをりーの節 色蕉

下つていふもさうしんをりーも 也有  
系をさうしんをりーも 曉臺

小名

小名後 小名まき青娘しん板屋 蕪村

もさる 一もさる養こふぬあふれ 白芝  
歌まき 出てさうしんをりーも 恋巴



木つたの入口りり救のね 文章

山麓 山つちや櫃の者本は毒にもとる 蕪村

百草 草草よ然のんはうられたり 野坡

粟採や日入をてし鴉のうゑ 曾采

鴉以て風照とまろこれ 圃更

鴉也や夕日の影を放の末 也有

鴉も 篠井の弱き一棲むやあけ後 沾葉

鴉も 夕ぐれをよめてぬす株の羽音か 一保

鶯 せむれいやは空土をねる群の上 磨盤

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高

鶯 鶯のまゝふくたてうらむうらむ 臥高



陽川  
 木導  
 月代  
 蘭更  
 大江丸  
 蕪村  
 千代  
 雲口  
 野坡  
 正秀  
 探芝  
 大江丸  
 如泉  
 蕪村

書出

写

也有  
 馬印  
 陽和  
 大魯  
 希因  
 湖天  
 秋色  
 蕪村  
 魯江  
 蓼太  
 大屋  
 蕪村  
 乙由  
 孤屋

引板

流水

落水

稻











高松集 木は斧のこゝろはしきるぬま 作者

松不ま けつろぬ松よりきり日わつね 祐昌

木実 孫らへ木本実の中に藤のふん 李里

板美 木小も松おちらひた板美 鬼貫

梨 玉梨もきり母とせし松の水 大江瓦

栗 古ちり栗は生るる松の下 鬼貫

松 松は撰る栗や松葉や並あり 射江

冬栗 松栗のこころいさるる松 青藤

枅 冬栗や松叶の朝餉 凡此

枅 冬栗て又枅うする松 大抵

枅 枅の形の本とさるる松 利牛

松 松枅や松の肉うら心の道 作者

松 松枅 支考

へつとくと熟枅はるる月おき 白歌

さい 支考

種 ぬのや二斗くく松の枅 沾徳

枅 枅松の月刈とふん 二柳

未枅 未枅らへ未枅 北枝

今年来 未枅や西日 曉臺

今年滴 未枅 几童

水 水上松汲んたる松酒 大瓦

綿 日ひくくや松 古帆

松 松 富定

松 松 京苑

松 松 重頼

松 松 嵐雪



浪船一隊はつたるの音 春坂

鞠引 引上てふゆとてしひやうし 白扇

鳥巢 うつくまの鳥の住みやあやふ 文庫

築山の人をすねりて下り月 船丸

櫻 紅うつつうつつにたはる花 七里

藤は八すこおしとこま居る花 支考

生葉はちちちちしとて花 千川

雁はまゝさうじんしとて花 柳七

松茸のやまのうくれは花 毛細

灯火は風うらつとて花 青蓮

仁れもや門のよめるを花 几童

ふこの花は秋あまを花 大魯

青くしてあまを花 千代

雲 あまのたはりの花 雲

露雨 むくまをて木をまのる花 幾離

葉の裏のものはつくと花 希因

冬竹 巴入もして花 露川

秋晴 戸を打く花と秋を花 蕪村

雪秋 秋を花とて花 昌碧

行秋 行秋や花もさへつた花 芭蕉

行秋や別深ぬきと花 乙由

行秋の日はよつと花 丈草

行秋よまを花 杜年

行秋やあまを花 越人

行秋やあまを花 二柳

行秋や花を花 大冠



十月

初陽 ひとあす霜のまじり初陽雨 去来  
 秋葉のやぬのまじり初陽雨 許六  
 故郷よまじり秋のまじり初陽雨 荊口  
 ひこらの壺のまじり初陽雨 野坂  
 異葉のぬれまじり初陽雨 乙由  
 初陽雨のまじり初陽雨 西谷  
 春のまじり初陽雨 諷竹  
 こけのまじり初陽雨 青蘿  
 傘籠てまじり初陽雨 淡々  
 ゆきまじり初陽雨 蘭更  
 ぼろぼろまじり初陽雨 千代  
 雨あて日あしめ初陽雨 白空

いそいそと舟の初陽雨 去来  
 沙雪まじり初陽雨 李由  
 曉のこけのまじり初陽雨 木因  
 早霜のまじり初陽雨 浪化  
 早くともまじり初陽雨 野坂  
 木葉のぬれまじり初陽雨 乙由  
 池のまじり初陽雨 北枝  
 竹まじり初陽雨 野坂  
 食時まじり初陽雨 去来  
 朴の木伐のまじり初陽雨 宇治  
 初陽雨まじり初陽雨 三岐  
 炭のまじり初陽雨 知外  
 篠のまじり初陽雨 氷因  
 時あかりまじり初陽雨 青蘿



竹本松火よ赤音と持しうれ 歳人

是悪もねくころ時ゆめ山流非 空若

ひかしくと沈いき憂を村ぬるも 壺中

雪やゆもよ交るやふのいと 朱拙

押あつて相いものうしと非非 野坡

十月 十月のひはれやとたつまうぬ 縣草

十月の人まるところの月おぬ 五明

十月 鴨のねいんたりゆらふ月 甫尺

初冬 初冬や白湯と寒おほ後松陸 干梅

初冬の撒い入るやたりしす 蓼太

小春 さく栗のほよみぬくすまをか 鬼貫

初冬のて出れふまはれ又み哉 李由

初冬のねのまおすこある小まを非 涼併

非送 戸をさくくをいさう非送 ころ

書きものとおれはさう非送 鬼貫

け里の年のきりきり非とくろ 木枝

書指 梳の形をぬよといれはま松非 除風

まろしと解後まぬかのこ非 徐寅

色よぬつておのこころのぬき内 太徳

書き 色くまやまきとぬる縁以 白雄

書書思 おいよま成非し唱んはりうぬ 二柳

芭蕉まよや其角と縁の冬牡丹 大江丸

十月やまねしと成まを非 大魯

書書 色葉能改さうつろり所余後 芭蕉

一人の鼻よ痛おけ所余後 史邦

山余後や雪まのの上の麻後 奚魚

上まおや月お照おけ所余後 儿董

十友 小切まの伯父よあまらうす友非 乙由



ト糸のくすのこも十枚并 許六

付火は鴨居のひくろ十枚并 岱水

白の木の障へひくろ十枚并 千梅

居風呂とふろすまの十枚并 史邦

蓮化のまの十枚并十枚并 凉信

銘紙のこしおろし十枚并 也有

あまのこ糸もたふし十枚并 蕪村

あはれまふこととせりぬえ紙 芭蕉

玉髪百人あまのこし 山庄

ゆくり紙内巻のまの二枚并 嵐竹

ゆくり紙十枚并たは、招の次 史邦

ゆくりあまのこ糸十枚并 去来

生れてのまのけし戒り 杜若

ゆくりあまのこ糸十枚并 我孫 暁臺

庶幾

妻保

お糸

お糸や糸冷ゆる後の紙 芭蕉

おしやうつてつろふ酒の輪 史邦

おしや糸くこもる後紙 野坡

何物そらうしひこさうの紙 一枝

お糸や糸のひつりる紙 正秀

戸よこりの糸の糸五竹の門 横草

隠家や糸もさうとさう紙 路通

ひくろに列てふお糸紙 惟然

からくしとお糸し清し糸の糸 芭蕉

有めはらう糸のこよまの糸 驕道

あまのこ糸の糸の糸の糸 馬肝

糸の糸の糸の糸の糸の糸 田央

糸しと糸の糸の糸の糸 園更

糸の糸の糸の糸の糸の糸 大江元



お枝の芳気家のひうろくね 大江丸  
お隣のあまけしおーお枝 利牛  
風や天井のうね堂の内 林紅  
お枝のあまけしおやこみ拵 夫柳

風や歌のまうこく鳩の声 雨色  
風よこまけしおーおまけしお 乙由  
風や井のあまけしおまけしお 色蒸  
風よけの船ひらむ入江に 露沾  
風や橋のあまけしおまけしお 田醉  
風よこまけしおまけしお 元梅  
風よいつまけしおまけしお 正秀  
風のおめあられやまの鈴 陽和  
風や雲よかまけしおまけしお 蝶夢  
おまけしおまけしおまけしお 暹望

おまけしおまけしおまけしお 氷峯  
おまけしおまけしおまけしお 萬年  
おまけしおまけしおまけしお 蛙足  
おまけしおまけしおまけしお 桃隣  
おまけしおまけしおまけしお 諸九  
おまけしおまけしおまけしお 巴人  
おまけしおまけしおまけしお 百香  
おまけしおまけしおまけしお 佐角  
おまけしおまけしおまけしお 配力  
おまけしおまけしおまけしお 青蘿  
おまけしおまけしおまけしお 烏明  
おまけしおまけしおまけしお 其角  
おまけしおまけしおまけしお 燕下  
おまけしおまけしおまけしお 氷峯







七弦 嵐よのそそりてわらわらんふら 其角

唇のまはいつくそそりり 涼菟

うらむいひ橋うてそそり 風律

居賦こころあはれうらんそそり 蕪村

常の果の隣まふあこりり 青蘿

冬旅 冬うれの旅ま今知るこころ 芭蕉

冬旅やひくろ牡丹のちさもろ 千代

冬旅や冬いふ紫まうつれて 窓巴

茶田 口切や五山流さんと何のちたて 蕪村

茶田やちあうつれ母のこころ 杜若

茶田やと旦すおのつくり取く 古帆

夏 茶忘言よふくこころ 芭蕉

ふらふのこころ一まておる巨匠 大江

火燈せつとこころん茶をわら 二柳

ふらふの里しまじして火燈が 風律

竹 燈火や暖まれば星一つ 乙由

燈火や暖まらば来るおのころ 浪化

燈火や暖まらば居るおのころ 青蘿

火桶 赤の後旅子暖まる火桶うら 芭蕉

白川の浪とくくも相火桶 其角

赤の後まや火桶のかてん 存義

火桶抱てうらぬらくおお 臥央

旅まきてんよをた火桶が 蕪村

火桶 火桶抱て居るおのころ 祐昌

火桶抱や火桶おのころ 壺中

湯婆 一取二お暖いたんおも 白雄

指 鶴や指くおの火のうら 洒堂







ひのちもすむらひのち  
蕪村

おろけいけいんちのち  
菅菰

二柳  
二柳

去来  
去来

浪化  
浪化

蕪村  
蕪村

暁臺  
暁臺

牛寂  
牛寂

木導  
木導

月尋  
月尋

逸渾  
逸渾

蕪村  
蕪村

大江丸  
大江丸

祐昌  
祐昌

樽良  
樽良

石丈  
石丈

涼信  
涼信

團水  
團水

乙由  
乙由

李冠  
李冠

序令  
序令

野波  
野波

大江丸  
大江丸

蕪村  
蕪村

菟子  
菟子



杜若

白圃

菖蒲 小舟 枯菊 白りり 几董

枯草 惟然

枯枝 一清也 一秋の いろ青 窓巴

枯芒 気をつけてみる 籠を 枯芒 杉風

枯尾を おまふりて 出又入ぬ 枯尾を 圃更

形く 小振つ 小ぬ 枯尾を 曉臺

枯尾を 斗入

枯芦 二柳

圃更

圃更

圃更

枯叶 鶴と鳴 枯叶と 行く 白鳥 扣雅

鳥たりや 枯叶と 雀の 秋之坊

行鶴の 院より 行く 康工

只今と 捨い 捨りて 枯叶を 乙由

瑞穂の 草花は 乙由 其角

乙由 暮太

乙由 曉臺

乙由 蕪村

乙由 養浩

乙由 碧川

乙由 半残

乙由 乙由

乙由 何之 近之



個會

桂のしるこ由る細代の無邦 曉臺

川つやを吹ぬく細代も 其繼

秋波のよほもこつて細代も 也有

孫えよ月くそも細代も 牧童

水魚

月けのくまひていも水魚 松壁

水濱

水濱よ浪のこもあき野 我々

水鳥

あもとのあつらう山鳥 蕪村

あもやあつらう人のこゑ 青蘿

あもりの浪よあつらう乙則

樹

樹のよみやや空の葉雜故 十那

樹のつらねあつらう 元灌

雪ふんくは揺ていれ野 杜若

村も雪のあつらう 風律

あつらうのあつらう 曉臺

まぐさのあつらう 几董

村雨よ青あつらう 蕪村

くまのあつらう 門瑟

まがさのあつらう 松元

雨あつらう 大江元

あつらうのあつらう 雲芝

けつらあつらう 芭蕉

あつらうのあつらう 二柳

あつらうのあつらう 風律

あつらうのあつらう 文里

あつらうのあつらう 曉臺

鳥籠

あつらうのあつらう 吾仲

あつらうのあつらう 歌扇

あつらうのあつらう 北枝

水



寒や言やみ月も不入後 蝶夢

雪や雪の積る雪の松 鬼貫

海菜や一途氷る雪の松 除風

雪や雪やけふも海菜の雪のち 蜂尾

雪の松やみきしみけの雪の 麦水

雪の松やみきしみけの雪の 尺素

雪の松やみきしみけの雪の 枝東

雪の松やみきしみけの雪の 許六

雪の松やみきしみけの雪の 二柳

十一月

雪月 雪の松やみきしみけの雪の 杉風

雪月 雪の松やみきしみけの雪の 矢野

雪月 雪の松やみきしみけの雪の 乙白

小山の日本をせしむるをを我 石蘭

江波越て冬を玉の如白く 蒼洲

待忌 待忌や吹のそよ風も 来山

彼物 彼物 彼物 彼物 彼物 彼物 彼物 彼物

髪を玉に流の世との又 桃因

は華を にはくや吹華奈の海のかん 竹戸

神を かりしともねらる身はむ神奈 北村

後と後孫能そへて里神奈 其角

川越うつくしと 子葉

顔を 顔の世や人の世をわたり 清流

子葉 子葉や梅やうの節のおきり 山店

竹葉 竹葉や梅やうの節のおきり 紫曉



舞

新日つれあひれぬうらなな<sup>ま</sup>紫雲

一りり<sup>ま</sup>歸てや雨のこころ<sup>ま</sup>魯士

舞のよりのよせぬ<sup>ま</sup>津押<sup>ま</sup>二

備八の<sup>ま</sup>たなく<sup>ま</sup>て<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>木尊

夏より<sup>ま</sup>つる<sup>ま</sup>時<sup>ま</sup>入<sup>ま</sup>り<sup>ま</sup>や<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>曉臺

舞<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>た<sup>ま</sup>ら<sup>ま</sup>れ<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>也<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>蕪村

仏より<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>よ<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>希因

舞<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>月<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>夢天

舞<sup>ま</sup>人<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>を<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>け<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>社

舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>御吹

舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>乙由

舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>其角

舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>蘭更

舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>村若

さよ〜く<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>て<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>す<sup>ま</sup>一<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>千那

雪降<sup>ま</sup>や<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>望翠

舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>加行

雪<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>嵐彈

小<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>風國

舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>夫艸

舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>自樂

大<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>蝶夢

舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>夢天

舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>几董

舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>松月

舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>湘水

舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>涼苑

雪

舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>舞<sup>ま</sup>涼苑



雲 月夜 いづれも言ふことなき 秋之場

雲車 ひらきぬ 雲 あまのついで 萍花

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲

雲 あまのついで 雲 あまのついで 雲



おくとけ灯をさきたく喰はるたき希双

納豆 納豆とろろとたれや味の雪にし 文州

生海草 木の端のやうに思へん生海草か 燕村

梅よこへまのけふされて海草邦 二柳

靴鞋 乾鞋し雪也の履も雪の中 芭蕉

ついでけよこれたよしをのの 祐昌

糸 糸や糸の孔を糸の海 雪芝

七浦の人もころも糸も 尺 七尺

お具引 我まま月おおちしてお具引 二齋

十二月

ゆき おれれゆきをの海のゆきゆき 世兼

世の中ハ揃ろう上のゆきを 如行

おころろ小角豆も市のゆきを 正秀

何年のゆきを小文を雀をくれ 乙由

冬をおろものゆきを平睡を 萬海

冬もももてぬららゆきを 乙州

雪のゆきをゆきをの風を 青藜

白くゆきをゆきをの雪を 二柳

磨膏 いろろしふるゆきを 白雄

彌八 彌八はゆきの傍をおもろ 諸九

彌八はゆきをゆきをの傍を一人 圃更

寒念仏 寒念仏はゆきをゆきをの傍を 康龍

父もおろ母もおろたたゆきを 大江丸

お念仏や氷もゆきをゆきを 諸九



ほひるまふうまのほいさきさ 青蘊

門うふわんまのほいさきさ 盤風

佛舎 仏名やふあぬほうのまの中 許六

寒入 びりりして梅のほたるまの入 二柳

庭ひらりまのや氷水のまの入 松尾

寒月 きつた千一里まのつるまの山父

寒声 きつたや南大門のまのれ月 其角

寒振聲 きつたやまのれまのれはるま 二柳

寒梅 きつたや花ひるまの雪れ上 藁太

寒梅 ち梅やまのせまのまの船 橋本

ち梅 早梅の樹かまの人の灯は火 桐水

ち梅 ち梅のまのまのまのまの 千代

冬積 ち梅のまのまのまのまの 大江丸

これ袖のまのまのまのまの 一枝

大山積 雪ふんて大山と出のまの 古帆

衣配 衣配いさうぬ顔のまのまの 望翠

藤掛 と掛やまのまのまのまの 乙由

ち梅のまのまのまのまの 芭蕉

す梅のまのまのまのまの 大魯

ち梅のまのまのまのまの 萬子

めまのれ梅のまのまのまの 五丸

めりや雪あまのまのまのまの 園更

ち梅のまのまのまのまの 希因



青雲の せきよは報謝のかねうけり 鬼園

せきよはやう白ふつく袋掛 浪化

節が 豆と赤声の中ぬる冬ぬ 其角

鬼かすたふのや豆の意ひ 敬雖

棧賣 於よ價出を日ふ影うかたり 柳水

鬼のうてりすもふらう持賣 太元

年志 魚名のかりしは年志の 芭蕉

赤人のふらうてりし 乙刈

本原のうらうらふらふ 幽泉

人ふといは年志のうらう 杉風

あふらふらふのねや 曲翠

あふらふらふのうらう 鴛鴦

居風はうらうらふ 乙由

うらうらふのうらう 千代

年志

年のうらうらふは東家うき味 大魯

年のうらうらふは 希因

ねせせぬのねをくみり 大元

か火のたよもるは 鬼貫

一儀の岩やまは 詫九

子の尾まはらうら 乙由

子の尾とまうては 乙由

うらうらふのうらう 乙由

うらうらふのうらう 乙由

うらうらふのうらう 乙由

うらうらふのうらう 乙由

うらうらふのうらう 乙由

うらうらふのうらう 乙由

うらうらふのうらう 乙由

うらうらふのうらう 乙由

横を

松風うらうらふ 蘭更

横を

松風うらうらふ 蘭更



小井月 羽立りくしたのむもくろふ世日 蝶夢  
大井月 鶴... 其角

おつ 大井月 柳也 大二十日 移竹  
百一人... 仙化

り年 ひとし... 沙明  
りま... 青華

り... 其角  
り... 大角

り... 野城  
り... 千代

り... 梅貞  
り... 橋長

り... 水童

捨のけ... 芭蕉

兼... 斗入

兼... 萬年

兼... 春鏡

田舎... 集



大阪 淺野高造筆

文化八年辛未  
八月吉日刻成

江戸書林

西村源六

角九屋甚

須原茂兵衛

浦井徳右衛門

菊舎太兵衛

野田治兵衛

京都書林



大阪書林

平野屋 宗七

秋田屋 太右衛門

布屋 忠三郎

鹽屋 平助

鹽屋 忠兵衛

藤屋 徳七衛

敦賀屋 久四郎

今津屋 辰三郎

藤屋 善七



